文京区アカデミー推進計画策定協議会
第４回生涯学習分科会

日時：平成２２年８月３日
午後６：３０～８：３０
場所：文京シビックセンター２１階　２１０１会議室

文京区アカデミー推進部アカデミー推進課

文京区アカデミー推進計画策定協議会第４回生涯学習分科会会議録

（敬称略）

「出席委員」

座　長	山崎　一穎
委　員	渡辺　泰男
委　員	清水　智博
委　員	佐藤　成臣
委　員	桝田　慶輝
委　員	黒木　美芳
委　員	渡辺　みゆき
委　員	八木　　茂

「事務局」

アカデミー推進部アカデミー推進課	八木　　茂
アカデミー推進部アカデミー推進課	内藤　浩司
アカデミー推進部アカデミー推進課	佐藤　祐司
株式会社富士通総研	稲永　和年
株式会社富士通総研	瀬戸　香織

○山崎座長：委員の皆さん方がおそろいになりましたので、第４回生涯学習分科会を開催したいと思います。今回で１つのまとめをしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。本日の欠席者はいないので、事務局の方から資料の説明をお願いします。

○事務局：それでは、配付資料のご説明をいたします。まず、事前にお送りいたしました第４回生涯学習分科会の次第等の資料がお手元にございますか、もしお忘れであればお渡ししたいと思いますが、よろしいですか。続きまして、本日の席上配付資料です。皆さまのお手元にお配りしている資料は３点です。１点目が座席表、２点目がご意見シート、３点目が文の京地域文化インタープリターの企画展のパンフレットでございます。

○事務局：こちらのインタープリターの企画展のパンフレットですけれども、部数がまだあるそうなので、所属をしている団体ですとか、サークル等で配布をしていいということであれば、ご連絡をいただければ、お渡しすることができるということをお伝えくださいということです。もしそういうことがありましたら、事務局の方へご連絡をいただければと思います。お願いいたします。

○事務局：続きまして、資料の説明をさせていただきます。次第をご覧いただきたいと思います。まず次第を一枚おめくりいただきまして、資料生涯第 10 号と書かれているものです。Ａ４横書きの表になっているものです。こちらは皆さまからいただきました意見に基づきまして、体系づくりに向けた項目の案を第３回分科会にて皆さまにご議論いただいた内容に修正したものです。それから一枚おめくりいただきまして、２ページにございます資料生涯第 11 号の事業（案）とりまとめ資料ですが、前回、委員の皆さまに宿題をお願いいたしました事業（案）の提案シートによりいただきました提案事業、それから現行計画で既に行っている事業、またその他の分野別目標や基本的な方向性に関して考えられる事業を例として一覧にしたものです。続きまして、３点目でございます、８ページをご覧いただければと思います。８ページの資料生涯第 12 号です。こちらは、分野別の計画骨子の案です。第３回分科会にてお示ししたものに体系づくりに向けた項目案の修正内容に基づきまして、分野別の目標ごとに現状と課題、それから取り組みの方向などについて成文にしたものです。資料の説明は以上です。

○山崎座長：ありがとうございました。この次第に沿って進めてまいりますけれども、大きく３点あります。第１点目は前回の分科会を踏まえて、資料第 10 号、体系づくりに向けた項目（案）となっていますが、まずこの確認作業が１つあります。２点目が、これは皆様から寄せられた意見をまとめたものですが、事業（案）取りまとめ資料が第 11 号です。これが今日一番時間をかけて討議しなければならないことだと思います。３点目が資料 12 号の分野別計画骨子（案）、これは確認をいただいて、ご意見をいただければと思っております。そういうことで進めてまいりたいと思います。

まず、第１の体系づくりに向けた項目の検討ということの資料第 10 号について、事務局の方から説明をしていただきたいと思います。

○事務局：資料第 10 号について、前回の分科会より変更しました点を主に確認していきたいと思います。確認は、分野別の目標ごとに行っていきたいと思います。

はじめに、１の「いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実」というところですが、ここは（１）、（２）と（４）に変更がありました。（１）につきましては、「多様な講座や」の「多様な」を追加しております。また２番の「学習や活動ができる環境の提供」ですけれども、ここは以前は場所の提供だったのですが、「環境の提供」と変更しております。また４番は、前回は柱３本だったのですが、図書館について記載が必要だろうというご意見もありまして柱が１つ増えております。（４）に「さまざまな学習活動を支援する区立図書館」というのが入っております。

次に２番「一人ひとりの学習や活動を支えるための情報提供、相談体制の整備・充実」ですけれども、（４）図書館についての柱をこちらにも追加しております。「地域における情報拠点とな

る区立図書館」、こちらを追加しております。
　次の３「区民・団体の主体的な活動の支援」ですけども、こちらは分野別の目標に変更がありました。以前は「区民の主体的な活動」だったのですが、「・団体」ということで「団体」を追加としております。
　最後に４番「学習ネットワーク形成のための連携・協働」ですが、こちらは（１）、（２）、（３）に変更がありました。まず（１）は、前回は「地域との連携・協働」だったのですけども、ここには区民も入っているだろうということで、「区民や」というふうに追加しております。また（２）、（３）、こちらは両方に言えることだったんですけども、前回は「区内大学との連携・協働」、また「区内企業・団体との連携・協働」でしたけれども、区内に限定する必要もないのではないかというところから、「区内」を取りまして、「大学との連携・協働」、また「企業・団体との連携・協働」と修正しております。変更点は以上でございます。

○山崎座長：どうもありがとうございました。ここはそんなに問題になるところではないので、皆さんの確認ができればいいだろうと思いますが、何かご意見がございましたら伺わせてください。
　なければ、次に、資料第 11 号ですが、この具体的な事業（案）の取りまとめ、これは皆さん方から寄せられたものを事務局、それから座長も目を通してございます。まず、資料の説明をお願いします。

○事務局：それでは、続きまして資料第 11 号の事業（案）とりまとめの資料について、ご説明をさせていただきます。この資料は、それぞれ印が３つございます。黒丸と白丸と四角の３つの記号があるのですけれども、黒丸につきましては、皆さんから頂戴しましたご意見をそのまま反映した事業や、エッセンスを抽出させていただいて反映した事業でございます。白丸につきましては、現行の計画より継続する事業ということで入っております。四角の事業につきましては、黒丸、白丸以外のその他の案ということで、事務局の方で検討の上、付け加えさせていただいた事業となります。
　それでは、柱に従ってご説明させていただきます。まず、１「いつでも、だれでも、どこでも学習や活動ができる機会の提供・充実」の（１）「講座や学習機会の提供・充実」ですけれども、こちらについては、区が主体的に動いていく講座、区民が動いていく講座、大学の方で提供する講座、また民間が提供するという講座という視点があるかと思います。順に上の方から、こちらは区から提供していく事業と考えているのですけれども「文京学」、こちらの「文京学」というところの定義ですとか、内容については、後ほどご意見をいただきたいと思うところではあるんですけれども、「文京学講座の実施」、また「文京アカデミア講座の実施」というところで考えております。また、区民につきましては「区民プロデュース講座」、これを継続して行うということと、委員の方から「誰でも地域アカデミー制度の創設」ということでご意見をいただいております。また大学につきまして、次に２つ白丸で書いておりますが、「大学プロデュース講座の実施」「資格取得キャリアアップ講座」、こちらは大学との協働で継続して行っていこうということで入れております。その下の「民間カルチャースクールによる講座の実施」、こちらは委員の方からいただいたご意見ですけれども、民間ともこういった講座で連携をしていこうということで入れております。以下、白丸が並んでいるところについては、少し文化芸術の色も入っているところではあるんですけれども、生涯学習についても区の文化や歴史を知るというところでは必要な項目ではないかということで入れております。「ふれあいのつどい事業」であるとか、「ふるさと歴史館事業の充実」といった事業を入れております。
　次、ページをめくっていただきまして（２）の「学習や活動ができる環境の提供」というところにいきたいと思います。こちらについては、上から順に「区立の施設活用促進」であるとか、「区内公立・民間施設の開放要請」、また「大学施設の開放要請」ということで、場所そのものの活用や、開放要請というところで入れております。また、一番下の「文京区インターネット施設利用ネットワーク」では、場所を利用するに当たって、インターネット上から施設の利用の予約ができたりとか、またその施設を使ってみてどうだったかという感想などについても、書き込める欄があるといいのではないかというご意見を委員の方々からいただいておりまして、キーワー

ドのところに含めております。
　続きまして（３）「だれもが学習・活動しやすい仕組みづくり」ですけれども、こちらは時間の配慮であったり、子育て中の方にとっての配慮というところがあるかと思います。上から２つ目のところに「ミッドナイトゼミの実施」、また３つ目のところでは「講座・講演会等での保育室の設置」、また「手話通訳者や視覚障害者ヘルパーの設置」というところも挙がっております。以上が（３）の事業で考えているものの紹介となります。
　（４）の「様々な学習活動を支援する区立図書館」については、現在事業を検討中ということですので、ご了承いただければと思います。

○山崎座長：どうもありがとうございました。項目が５つありますから、一度にはなかなかいきませんから、各項目に 15 分ぐらいの時間配分を考えたいと思います。そうしますと、５つで 75 分ぐらいかかりますが、途中休憩を挟みながら、ここが中心になりますものですから、眺めてみてご意見をいただきたいと思います。
　それで、座長から口火を切らせていただくと、文京学ということを私が言ったものですから、項目だけでは不足しているので、若干説明をすると、文豪たちがどのように文京区で生きてきたかの足跡をたどる、これも文京学の１つなのですね、一面なのです。私が考えていたのは、例えば観光で、文京区らしいお土産を持って行ければいいわけです。そのお土産の根拠になるようなものが文京学として位置付けられると一番いい。そうすると、地政学みたいなものから、歴史、文化という総括的なものの中で、文京学を考えてみたいと思っております。今ここにインタープリターの企画展のパンフェレットが配られているわけですが、おそらくこういうものを片一方で引きずりながら、現代史の中につながっていくのだろうと、そういう意味では文京の歴史文化を総合したもの。なかなかうまくまとまらないのですが、私自身はこうも考えているのです。ここでは皆さん方の共通認識だけ得ておけば、もしうまくいかなくても全体会へ持っていったときに、逆に観光なら観光分科会から意見をもらえばいいと思っていますから、「あなたたちがお土産を作るのにどういうふうに考えているか」と、そういうふうに結び付ければいいと考えています。ただ、ここのグループとして方向性だけは一致していないといけないから、そんなことを考えた文京学だということを頭の中に入れておいてください。
　ほかに、皆さん方が提案された中で、こういうふうにしておいた方がいいとお考えの分野、あるいは思い切って新しいものを付け加えていくというものがございましたら、ご意見をいただければと思います。

○佐藤委員：よろしいでしょうか。私、今日、７時になったら文京学院大学の方に行かなければならないものですから、中座をさせていただきたいと思います。申し訳ございません。この「誰でも地域アカデミー制度」というのは、私の方で提案させていただいたのですが、現時点で拠点が足りないということが事の始まりでして、拠点が足りないけれども新しく形成するにはお金がかかるということです。そうだとすれば民間の家だとか、今はマンションがかなり立派になってきて共有スペースが出てくるものですから、そこを借りるような形のもので、社会福祉協議会ではもうすでにやっているのです。「ふれあいサロン」という名前でやっているものですから、その辺の生涯学習の場ができればいいかなというのが、今回、自分が出させていただいた提案です。
　意見ですが、今、先生からお話のあった文京学ですが、われわれが生涯学習をつくっているときに文京学という項目をつくっておりました。それのもともとの理由というのは、文京区は実は住民の移動比率というのが非常に高いと聞いたのです。年間で３割ほど住民が入れ替わるということを聞いたのですが、そうなのですか。

○八木委員：出入りの合計では３割になるという話を聞いたことがあります。

○佐藤委員：そういうことを考えると、３年で住民がきれいに入れ替わると、理論上なのですけれどもなるということ、これは数字のマジックですけれども、そういう形になるのですけれども、それを見たときに、文京区に新しく越して来たときに、郷土愛を持ってもらうためにその支援をしたらどうだろうかということで、毎回、文京区のいろいろな分野を取り上げて、新しく引っ越

して来られた方に文京区のことを知ってもらおうということを伝えるという取組みがありました。ただ、今の先生のお話ですと、観光の側面とか、アンバサダー（大使）の養成みたいなところもあるのでいいなと思ったのが１点です。

もう１つ、３番の部分の「入会員募集方法や会員間の連絡方法の導入」の中で、メーリングリスト等の導入の実施と書かれているところがあるのですが、メール環境に基づく情報交換というのは、昔、千代田区の方で広域的なＳＮＳ（ソーシャル・ネットワーキング・サービス)、要するにｍｉｘｙみたいな形のものをやったのですが、ほとんど盛り上がらないで終わっちゃったということがあったものですから、これをもし実行する場合については、相当事務局の力が必要ではないかということを感じた次第です。以上です。

○山崎座長：ほかにありますか。

○黒木委員：今、先生は文京学とおっしゃいました。かつて文京アカデミーの方でも文京学という言葉だったと思うのですけれども、これは素晴らしく魅力的なことですが、ここでイージーに出したら危険だと思うのです。どういう形の学問としてとらえているかということを文京区が持たないで挙げてしまうと、それこそ観光の旗振りか何かになっちゃいますから、これは時間をかけた方がいいと思います。学問として本当に成り立つのかどうかということがあるでしょう。

○山崎座長：学問として成り立つかどうかというのはあります。

○黒木委員：そうしたら立派なものです、よそでもやります。

○山崎座長：そうはいっても、文京区らしさというのをどうするのだと、例えば厳密な学問でないにしても、住民の郷土愛みたいなもの。

○黒木委員：そんなのは区の広報課がやればいいのです、そのくらいのレベルでしょう、文京学、新しく来る人たちに対して。

○山崎座長：だから郷土愛ならそうかもしれない。でも今私が言おうとしているのは、例えば地勢というお話をしたわけです。

○黒木委員：文京区の地理ですね。

○山崎座長：山があったり、谷があったり。

○黒木委員：地勢ね、そっちの方。

○山崎座長：地勢、そこのところから出発する。単なる地理でもいいです。

○黒木委員：それはもうやっていますよ。

○山崎座長：そういうところからきちんと出発しながら、１つは定点観測、それから古老に聞くというアーカイブと、それから語りと、それをセットにしたところで何かできないか。それで今ここに『文京区ゆかりの人たち』という本があります。これに実は付録が付いていまして、この付録が非常にいいのです。この地図に赤点が入っていて、文豪たちがどこに住んでいたかということが書かれている。だからこれも１つの方法だろうし、それから区内のミュージアムがネットワークで走らせている、あれをつないでみることも１つの方法だろう。確かに黒木委員が言うようにこういうものが学として成り立つということになると、今の大学自体の「学」がもう崩れていますからね。

○黒木委員：そういうこと言っちゃうとあれですけどね。

○山崎座長：だから、そう堅苦しく考えなくても、しかし同時に文京らしさというのは本当に何なのだということを、そういう講座が必要ではないかということの提案です。だから、いい知恵があればいくらでもね、何もこれにこだわる必要はないわけだから。ただ、方向としてそういうことを考えておかないと。観光で、例えばお土産、文京区へ行ったお土産を、文京区らしさっていう、この地図だったらお土産になりうるだろうけど、何かそういうものが。

○黒木委員：それは「学」までいかないですね。

○山崎座長：いかない、いかないことも承知している。ただ、「学」って付けちゃったからそうなるんだけど。

○黒木委員：お土産は、商工会議所などが頑張ってやればいいのであって、らしさだったら外が見つけてくれる部分がありますから、こちらで打ち出すものはしっかりさせないと。

○山崎座長：だから、分野はそこから何が出てくるか。

○黒木委員：もちろん歴史はありますよ、過去の文人もありますよ。

○山崎座長：だからそういうものを。

○黒木委員：過去のものだけを並べるだけではなくて、生き物として扱わないと「学」にならないです。

○山崎座長：だから「学」に僕はこだわる必要は全然ないと思っています。ただ、名前が文京らしさっていうよりも、文京学というものに。

○黒木委員：したいという気持ちは分かります。

○山崎座長：挑戦をしていく、つまり新しい形です。だから、そこだけ理解していただいておいて、個々に詰めなければならない部分はたくさんあるし、今言ったとおりに、具体的なものが何かということは必ずしもここだけでなくて、分からないこともあるから、全体会へ私は持ち込んでいけばと考えています。

○黒木委員：図書館を充実して、この種のものを全部入れるんですよ。夏目漱石だけだって大変な量の学問があるのですから、そういうものが充実していれば、文京学に近づいているとよそは見るわけです。

○佐藤委員：私はそれはちょっと違うと思う。

○桝田委員：私は文京学という１つの概念でいいと思っているんです。先ほど先生がおっしゃったように、自分たちがらしさを求めるといったら、みんなで「これはらしさですね」ということを持ってくればいいわけです。環境も１つだし、文豪も１つだし、区民の生活の中のお寺もらしさの部分です。あるいは千駄木の町と小石川の町とでは全然雰囲気が違います。それぞれの地域の中でらしさとして公開していくということをやっていただければ、らしさがさらに重厚になっていくのではないかと思います。

○佐藤委員：私が黒木さんとちょっと違うと思うのは、おっしゃられたことはすごく分かりますが、こういうのは商工会議所がやればいいんじゃないでしょうかとか、例えば本を充実してそう

いうところの案内をすれば学ぶのではないですかということですけど、引っ越してきたばかりの人であるとか、新しい人が自主学習まで行くかどうかというところがあって、私は行かないような気がします。つまり図書館にその本が充実していることすら知らないっていう人がどうやって学習するのかといった。

○黒木委員：必要です。文京区入門という講座はそうです。

○佐藤委員：それが文京学の入り口であって、私もっと知りたいことがあるのですよ、例えば町名であるとか、坂であるとか、医療産業であるとか、東京ドームであるとかっていうのを一律に横ぐしで刺していったときに、文京学という言葉を当てはめるということはちょっと強引なのでしょうかね。

○黒木委員：そこは文京学という言葉を使っていたのはいいけれども、たぶん学者の人たちは横目でチラッと見ているだけになっちゃいますよ。

○佐藤委員：ほかでもね、川崎学であるとか、いろいろ私も聞くものですから、世田谷学とか聞くものですから、やはりあった方が響きもいいですし。

○黒木委員：そとめにはいいけれど。

○山崎座長：文京入門だっていいですよ、何も「学」にこだわる必要はない。

○黒木委員：そっちの方がいいです。よその区の人がいっぱい勉強しに来ますから。

○山崎座長：ただ、そういうものがやっぱりどうしても必要だろう。だからそこの意見が一致さえしていれば、全体会議に持っていって、いろいろ意見を聞いてみるというのは１つの手かな。

○佐藤委員：郷土の学びはすごくいいな。

○桝田委員：らしさがいっぱい積み重ねになるといいと思います。それはみんなが、区民が参加できて。

○黒木委員：悪い面もらしさの１つだから、それも積極的に取り上げないと駄目ですよ、文京区は。いいところばかり出したら。

○桝田委員：図書館に本を並べるのが充実だというのは、ちょっと僕は反対です。

○黒木委員：違うよ、あれだけある図書をきちんと学問として整理できたとき、「学」になる。

○桝田委員：そういう点はね、どっちみちやらないといけません。

○山崎座長：というのは、文京区史を読んで分かるかっていったら分からないですよ、実は。

○黒木委員：だからそれを一般に分かるように書けたらね。子ども向け、一般向け、学者向けに書けたら、それは「学」になっていきます。

○山崎座長：だけど、それは今のような文京入門でいいですよ。「学」ということにこだわらなくて。そういうものは、どうしても生活史みたいなものがベースになっていくだろう。

○黒木委員：それはいいです、文京区は。

○山崎座長：だから、そこのところから取りあえず出発した、そういう講座が文京区にはあるんだということをとにかく１つおいておきたいということです。

○佐藤委員：先生、ちょっと話が飛ぶのですけども、４ページのところの「こらびっとの充実と活用」のところだけお聞きして、中座させていただきたいと思うのですけども、「こらびっとの充実と活用」のところで具体的にどんなことをされるのか、ご提案をなさった方がいらっしゃったら教えてください。４ページのところで、黒丸ですので、たぶん分科会とか、意見シートで出た案だと思うんですけれども、どなたがお書きになったか。

○山崎座長：それはいろいろ張り付けた中から出てきたものですかね。

○佐藤委員：文京区の方でお作りになったのですか。

○事務局：ご意見シートでいただいたところでもあるのですが。

○渡辺（み）委員：私も意見を出させていただきました。私が意見を出させていただいたのは、今、こらびっとというのがあるのですけども、とてもいいホームページというか、システムだと思うのですが、あれを知っている区民が少なく、どのように利用したらいいかも分からないという状況です。いいシステムなので、もっとうまく広報して、いろんな団体が参加できるように、今例えば生涯学習サークル連絡会というのがあったりしますが、なかなか増えたりということができなかったりもします。こらびっとってとても入会しやすいと思うのですね。でも、今はどこが、アカデミー推進課がやっていらっしゃるのではないですよね、こらびっとは。ですから、もうちょっとアカデミー課が何か手を入れるようなこととか、もちろん協働でもいいと思うのですが、もっと活性化できないだろうかという意見なのですが。

○佐藤委員：なるほどね、ありがとうございました。

○黒木委員：使いにくいね、あそこね。

○佐藤委員：私は結論から申し上げて、こらびっとの充実というのはあまり価値がないかなと思っています。その理由は、こらびっとってあくまで情報をデジタルで張っていくというところなんで、生涯学習のように、人間がかかわっていくというところの事業とはあまり直結しないような感じがします。つまり生涯学習って、人の手を介して伝わっていく部分が非常に多いものですから、こらびっとって、ただ単にデータを張っていくだけというところがあるので、それは渡辺さん言われたように、生涯学習の部分については、これとは違った口伝えで伝えていけるような、何か仕組みのようなものを充実していった方がいい。それが学習相談なのかもしれないですけれども、その方がいいのかなと思って。

○黒木委員：あれは、単なる個人が提供している情報であって、特にこういう情報って管理しているわけじゃないから、中途半端で不満なのですけれども、公共の場所じゃないです、あれは。

○佐藤委員：だから充実というところについては。

○黒木委員：掲示板ですよ、あれは。

○佐藤委員：私もそのレベルで見ているので、現行のままの延長線でいいのではないのかな、使いたい人が使えばいいんじゃないのという感じで、私も利用してみました。

○桝田委員：あれからリンクはできましたよね。

○佐藤委員：できます。

○黒木委員：リンクはできるんですけれども、ちょっと上手にできる人は窮屈なのですね、フォーマットがありすぎてね。できない人は言われたとおりにやるから、使い勝手のいいという人と分かんないという人がゴチャゴチャになっている。ちょっと改善がまだないですね、何年かたちましたけどね。

○八木委員：よろしいですか。基本構想の中に情報の一元化をしていきましょうということが入ってきています。一元化をするために、ある意味まったくゼロから新しいものを作るのがいいのか、いろんな経費や人も必要になるという形でもやるのか、あるいは今あるものの充実というか、少し改善しながらやるか、その辺はよく見極め、考えなければいけないと思っていまして、どういう方法がよいかという妙案はないのです。以前から情報の一元化というのはテーマだったのですけど、一元化といってもどこまで含めるかということもあって、区役所の中の情報も必ずしも一元化になっていない、ホームページを見れば全部書いてあるけど、それがすぐに取り出せるようにはなっていない。課題として持ってはいますけども、どうやっていいか即答はできない状況です。

○佐藤委員：おっしゃるとおりで、私も黒木さんが言われたことがズバリかと思うんですけど、電話帳の代わりだと思って使えばいいのかなと思って、電話帳って電話番号以外に記載内容はないですよね。

○黒木委員：今の段階はね、見ていると分かるけど、活動しているとか、登録しているサークルを調べることができる。

○佐藤委員：基本情報として持ってればいいと思うんで。

○黒木委員：サークルの掲示板であって、八木さんがおっしゃるものであれば、もう１つのスペースを取って、いわゆる一般データというのを置く欄を。

○佐藤委員：私はコンタクトのためにこらびっとを使っていて、具体的にもっと詳しいことは、そこにメールを送るなり、電話をかけるなりっていう続きでいいのかなと思うので、今ぐらいのこらびっとのレベルでいいのではないのかなと思います。渡辺さんは、あのページを例えば充実させて、ブログみたいに使っていった方がいいとかっていうイメージなのですか。

○渡辺（み）委員：要するに区民が簡単に掲載というか、参加できるホームページという意味で。

○黒木委員：区民課がやってあげますから来てくださいとやっていますよ。

○渡辺（み）委員：でも、ホームページにもこらびっとに飛ぶようにちゃんとなっていますけれども。

○黒木委員：反応はないでしょう、それは寂しいね。

○渡辺（み）委員：なかなか見ている人も少ないのですよね。

○黒木委員：載せた人は見る、それはみんな宣伝と同じ。

○渡辺（み）委員：だから、こらびっとにこだわっているわけではないのですが、別にまったく新しいページを作ってもいいのですけれども、せっかくあるので。

○桝田委員：活用しておいた方がいい。

○渡辺（み）委員：八木さんがおっしゃったように、何かそれをうまく利用できないかなって。

○黒木委員：それはあるのだからね。

○山崎座長：おそらくＰＲ不足だということがあるのでしょうね。

○黒木委員：僕なんかはＰＲの１つとして、サークルの集まりのところであれを直接見せるのね。そうすると、こんなものがあるのって、だんだんなっていくのだと思っている。

○山崎座長：それでは、佐藤委員からご意見を伺いましたけど、もう一度、１のところに戻りまして、どうですか。

○清水委員：ちょっといいですか、文京学といったときの最初のイメージの問題なのですけど、すぐ文豪が出てきちゃうじゃないですか。

○山崎座長：だからそれは駄目って、さっき言いました。

○清水委員：僕だったら、文京学って聞いたときに、文京区をもっと便利に楽しく過ごせるようなテクニックを教えてくれるような、そういうものをちょっと期待しちゃうのかな。別に歴史は好きな作家を探ればいいのではないかなっていうのもあるし、そこに住んでいるというのが分かれば、興味があれば見るのだろうけども、文京にいなくてもそれはできるような気もするのですよね。坂が多いから、この坂を通らないで目的地に行けるようなテクニックとか、あとはこういうのを買い物したいときにはここへ行くのが便利、こうやってこのバスを乗り継いでいくといいです、足の悪い人でもこうやって行くと楽ですよとか、そういう生活の知恵というか、文京区での生活の知恵みたいなものも教えてくれたり、あとはこの図書館はこういうのが充実していますとか。ただ、広げると難しいと思うので、例えば昔の区分け、本郷区とか、小石川区とか、そういうので分けて、小石川学とか、本郷学とか、そういうのに分けていったりしても面白いのではないかなと思うし、その中で便利に生きていくための、そういうテクニックみたいなものが学問としてあっても面白いのかなと思いました。

○山崎座長：問題は、やっぱり新しい事業ですよね、そこのところでどうですか。

○黒木委員：新しくないかもしれませんけどいいですか。大学は、区内の大学に限らないというお話がありますので、素晴らしいと思うのですよね。それは面として広がっていきますけど、その次は中身を検討していかないといけないと思うのです。大学が出してくれたから、何でもお願いできるっていうのではなくてと思います。

○山崎座長：そうです。これがかなり難しいと思うのは、大学っていうのはなかなか保守的なのですよ、そう簡単には開かないところがあるから、よっぽどうまくネットワークをかけないと。

○黒木委員：それが事業になりますね。

○山崎座長：それは黒木委員が言うとおりです。

○黒木委員：大学でも生涯学習を積極的にやっているところはありますし、講座によっては行っている層が違います。

○山崎座長：ほかに何かご意見はございますか。

○桝田委員：民間のカルチャースクールの実施ということで、今回、これは入ったのですよね。

○黒木委員：どういうことなのかな、民間のカルチャースクール。

○桝田委員：真ん中。

○黒木委員：書いてありますが、これはすでにやっていたでしょう、財団アカデミーでは。

○桝田委員：今回の意見シートの中で、はじめて入ったということですね。

○渡辺（み）委員：どういう点が新しいのでしょうか。

○黒木委員：何で黒丸になったのですか。

○桝田委員：今まで文章に掘り起こしがなかったわけですから、民間カルチャースクールの。

○黒木委員：何か意味が分かんないね。何で黒になったのですか。

○桝田委員：前の表現はカルチャースクールっていうのは出てなかったでしょう、大学と区民と。

○渡辺（み）委員：こういう名称は出てなかったのですが、財団アカデミーの方では、今までも民間カルチャーセンターというか、スクールと提携してやっていらっしゃいますよね。でもここで黒丸にしたということは、何か新しい試みを考えてのことなのでしょうか。

○黒木委員：二者だけにしないという話かな、提案。

○渡辺（み）委員：もっと増やしていくということですか。

○黒木委員：そういう意味なら賛成だけどね、競争させなきゃ駄目ですよ。

○山崎座長：ちょっと分かりにくいところがありますね。

○黒木委員：やっていっていいことですけどね、この項目は残してもちろんいいと思います。

○渡辺（泰）委員：２ページの一番に、小・中学生のための歴史教室を対象にした教室を開催と書いてありますが、教室というのは、歴史館の見学ということだけになるのですか。小学生は文京区の歴史の教科書をだいたい４年生ぐらいで渡されるらしいのですが、中学生は文京区の歴史を勉強しているのかなと思って、ちょっと聞きたいなと思って。中学生ぐらいはもっと高度な歴史を勉強、文京区に限った歴史を勉強してもらえればと思うのですが。

○山崎座長：ここのところがちゃんとしていれば、さっきの文京学みたいなことを特別言わなくても、ベースができてくるのですけどね、どうなのですかね、区の中学校、特別にそういうことをやっているのですかね。

○八木委員：特別にはやっていないと思います。小学生は３・４年生で地域の歴史ということを習う単元があるので、それに併せて歴史館に先生と一緒に来ていただいているということは聞いています。

○清水委員：地域の歴史っていうとすごく狭いです、自分の学校の周りぐらいのところまでしかやらないです。区内全部っていうのはしてない。

○黒木委員：教室で歴史を勉強させるとか、地域を勉強させるのではなくて、こうした地域の学問のベースとして、まず、近くから、次に町になって、市になって、国になってと、そうやっているんで、地域は確かに材料ですけど、そういう勉強の組み立てが何かできそうだね。ただ、私たちが言っているのは、やっぱり文京区のことですよね。

○桝田委員：先ほど言いました民間カルチャースクールの、これは真ん中の項目の中に入っていますけれども、これは私だけが提案したのですか、ほかもありましたか。

○事務局：このときいただいたのは、固有名詞の民間の企業のところを出していただいて、そこと連携するのはいいのではないかというところで。

○桝田委員：私が提案した意味としては、文京アカデミア講座の実施細目の中で、カルチャースクールへ依頼する講座は、受講者が安価で得意なコースに焦点を合わせてくださいということで。

○事務局：いただきまして、実はその事業が７ページのその他。

○桝田委員：そちらの方へ回っていますか。

○事務局：その他、要検討にさせていただいたのです。実現には検討が必要ではないかと、すぐに事業として入れるには検討が必要かと思いまして。

○桝田委員：そうしたら、この民間カルチャー講座の実施という言葉の中分類は適切じゃないのかなと思ったりするのですけどね、取り上げるに値しないか。

○事務局：すでにやっているということです。

○桝田委員：すでにやっているということですね。カルチャーセンターに安価で入門編としてやってほしいなという意味合いで提案したのです。この行は削除していただければありがたいと思います。どうでしょうか。

○黒木委員：入れておいて、対象を増やしてもらった方がいいと私は思います。

○桝田委員：そうですか。

○山崎座長：一応入れておきましょう。

○黒木委員：ああいうところも時期、時期で活発になったり、慣れっこになったりしちゃうところがあるから。

○事務局：項目としては、すでに財団アカデミーの方でやっているということなので、アカデミア講座の事業の１つとして、民間カルチャースクールの講座というのを入れるのはどうかとは思うんですけれども、１つ柱としてあった方がよろしいか、もしくはもう入れてしまってよろしいでしょうか。

○山崎座長：あるいは黒丸を白丸にしておいたら。

○事務局：そうですね、それもありますね。

○山崎座長：それで一応残しておいたら。

○事務局：分かりました。

○山崎座長：それでは、１のところはそのぐらいですか。次は２に行きますので、２の説明をしてください。

○事務局：２番目のところは４ページに書いております。２には「一人ひとりの学習や活動を支えるための情報提供、相談体制の整備・充実」ということになって、柱が４本あります。１つ目が「学習情報の収集・整理」というところで、生涯学習関連情報の収集と挙がっております。こちらは、今現在、区の事業でもやっておりますとおり、多様な学習情報を収集するというのが１つありまして、そのほかに委員の方々からいただいたご意見で、データアナリストを設置するのがいいのではないかということもいただいております。

次の収集した情報の「分かりやすい情報提供」のところですけれども、ここについては上のところに「生涯学習ホームページの充実」というところで、情報を一元化して発信するホームページの構築とか、その情報をメールマガジンとして配信することもやっていけばいいんではないかということで案をいただいております。また、情報提供の中に、ホームページだけではなくて、実際に体験する場として「文京アカデミア生涯学習一日体験フェア」、今もありますけれども、それを継続してやっていこうということで事業を考えております。

その次に、３番の「相談体制整備・充実」ですけれども、先に下の白丸のところなのですが、「生涯学習情報・相談コーナーの設置」と、こちらは区民プロデュース講座企画者のうち落選者に対して企画改善等の相談を実施するというのを、すでにやっているのですけれども、こちらについては企画者のうち落選者に対してのみですので、そうではなくて、様々な相談に対応できる相談員を設置していくのがいいのではないかというところで、黒丸の事業として生涯学習相談体制整備、こちらは名称を検討する必要がございますけれども、様々な相談を受ける場としての事業も検討しております。

また４つ目、こちらは新しく追加になります図書館についての柱なのですけども、大変恐縮なのですが、こちらも現在検討中ということでご了承いただければと思います。

○山崎座長：ありがとうございました。２の項目、今説明をいただいたわけですけども、皆さん方いかがですか。

○八木委員：一番上のデータアナリストってどういうことですか。書かれた方はいらっしゃらないでしょうか。

○桝田委員：データ分析、解説なのでしょうね。

○黒木委員：情報の意味合い、正しさ、その価値というのを分析できたら、そんな人がいたら素晴らしいですよ。だけどこれは難しいということですね。将来、経験を積めばできる人も出てくるでしょうけれども。

○渡辺（泰）委員：地域の情報拠点となる区立図書館は検討中とありますが、これは鴎外図書館のことを指して検討中ということなのでしょうか。鴎外図書館はこれからつくるのだから、文京区では一番充実した図書館機能を備えたものになると思うのですが、何かそんなようなことですか。

○山崎座長：それはちょっと違うと思う。これは少し説明をしておいてください。

○八木委員：鴎外図書館の図書館部分はすでに本郷図書館として開館していまして、鴎外記念館は、森鴎外の遺品や資料などの展示施設として、今、開設を準備しているところなのです。

○渡辺（泰）委員：相談コーナーではないわけですね。

○事務局：これは区立図書館８館を指しています。区立図書館８館を、今後、情報拠点となるように整備していくという内容で、具体的な事業についてはただいま検討中という状況です。

○八木委員：先ほどの１番のところでも同じ表現があります。

○山崎座長：だから、そうなっているから、委員の皆さん方が奇異に思って、どういうところを検討中なのかをもう少し言ってもらわないと、みんな検討中で、つまり図書館がこの間問題になって新たに加わったわけですよね、加わったのだけども、検討中というふうに全部やられると、委員の方が何かやっぱり。

○事務局：ただいま座長からお話がありましたことについては、分野別計画骨子（案）の 12 ページのところの（４）番のところに、このような事業をやっていきたいという前提として方向性を記載してございます。１つ目が、情報通信技術の積極的な活用を総合推進し、ホームページなどの方法を有効に活用し、社会情勢等を見据えたタイムリーな情報を発信していく、いわゆるＩＴを使った情報の発信をしていきたいというところで方向性が１つあります。これを具体的にどうしていくかということを今後検討していきます。

それからもう１つは、地域特性を生かした資料の収集・提供を行うとともに、地域と密接に連携した事業を展開していきますと、こちらについても、今図書館の方で具体的な個々の事業を検討しているところでございますが、もし各委員さんの中でも、こういった情報拠点としての展開ができるのではないかというご意見があれば、ここで頂戴できればありがたいです。

○黒木委員：こらびっとに比べれば、図書館のネットは利用されています。そして本も検索できますし、注文もできます。あの仕組みにちょっと載っければ、こちらのデータができてしまえば有効だと思いますよ、かなり有効だと。人がいなくても済む部分がそこでありますし、この図書館の活用ということで２つあって、そういった情報の拠点にするのと、もう１つは学習の場としてのことが入っていると思うのですね、教室が使えるとかね、あるいは何か催し物を図書館としてやっていくのかとか、それはもうすでに図書館としてやっているのですか、今やっているって、進めているって言っていましたけど、どうなのですか。われわれが提案してこれからやるのですか。

○八木委員：すでに図書館としての事業として、会議室がありますから、そこで不定期に催し物はやっているようですね。

○山崎座長：例えば、真砂図書館は近代文学を中心に集めるというようなことをやっていますよね。だから、そういうふうに資源に限りがあるわけだから、８館なら８館を一つずつ拠点を設けてという形で進めている。

○事務局：現在も８館で、文京区の場合は図書館の規模が比較的小さいのです。ですから、大きければそこにドーンと書籍を集められますけども、小さいので、それぞれ特色を持った、今座長がおっしゃったように真砂図書館なら文学系のところ、ほかの図書館であれば医療系のところというような本の収集の仕方をしています。

○黒木委員：ネットでやると８館が１つの館に私には感じられるのですよ、今ね、全体が。

○事務局：行き来できますから。

○黒木委員：本の方が動いてくれますからね。ただ、図書館に行って勉強するとかっていうと近い方がいいということで、それから情報ネットとは別になりますから。だからあそこのネットワークを使うといいなと思いますね。

○山崎座長：分かりました。そういうことで図書館の方はご理解いただければいいと思います。

○桝田委員：それから「文京アカデミア生涯学習一日体験フェア」のところですけれども、今、講座の紹介をするだけの記述になっていますけれども、下の方の相談や学習相談もコーナーとして設けております。それからサークルの紹介もやっているのです、今度９月３日にやりますけれども。そういうことで、タイトルは一日体験フェアでいいのですけども、項目としては様々な相談に対応できる体制がここに入るというのと、それから区内のサークル活動の紹介と入れていただければありがたい。生涯学習サークルの紹介という言葉の方がいいかも分かりませんけども。

それから、下の方の生涯学習相談体制の整備の中ですけれども、生涯学習司といったら皆さんあまり存じ上げられないので、これは区の資格なのですよね、そういう言葉は明確に言っていただいた方が。

それから、ここに書いているのは相談員の配置といっているのですけども、現実問題として人を増やしてまで配置できるわけではないので。

○黒木委員：それは仕組みとして考える段階でね。それから、今出た話の一日体験フェアというのは、アカデミー推進課から業務委託したわけじゃないですよね、あそこの独自事業ですよね。あれはお祭りですよね。

○桝田委員：お祭りですけども、基本的には皆さんに紹介する。

○黒木委員：機会にはなるけれども、年間で決まって、日にちが設定されてということまでいってないでしょう？

○桝田委員：基本的には、もうそれで決めきってもらいたいのですよ。

○黒木委員：もらいたいわけね。

○桝田委員：講座の始まる前に、年間の講座が前期と後期があって、その始まる前にこういう講座がありますね、皆さんのご相談に乗りましょうという形でやっている。前期の場合は、次の区民プロデュースに企画して、登録したいなという人たちの相談も受けます。相談にいらっしゃる方は、本当はどんな勉強したいかなという相談と、こんなことやりたいのだけどもどういうのがありますかといったサークルの相談まで展開するわけです。だから一日体験フェアの中では、サークルの登録されている部分も公開しようという考え方を持っています。そういうことで、インターネットでやる方法もありますし、積んでおくというやり方もありますが、年２回のフェアという場で公開するというやり方もあります。

○山崎座長：今そういう形の中で相談員を配置という表現ね、引っ掛かっているのは。

○桝田委員：一時、委員の中でもいろいろ考えたのですよ、難しいのです。皆さん働いてらっしゃる方、やろうとしたら、親の介護をしないといけないということで外れなきゃならないということもあります。簡単に配置という言葉は難しいところがあります。それから機会をつくってやる場合とかあるものですから、ということでございます。

○八木委員：これは先ほどと同じで、相談窓口の開設という意味合いで、基本構想ではやっていきましょうということになっているのです。どのような人員を配置するかというのは、これから決めてくということですので、いろんなケースがあると思うのですね。生涯学習司の方も来るかもしれませんし、生涯学習司でない方も来るかもしれません。ある意味おおらかに書いてある方がいろいろ進みやすいところもあるかなというのはございます。

○山崎座長：相談員を置くという、設置という言葉でしか表現できないかもしれないですね。た

だ、生涯学習司というのは区の資格であるということは明確にしてください。

○桝田委員：だから、先ほど言った文京区と一緒です、区独自のいいところですから。

○山崎座長：ほかにございましょうか。

○渡辺（み）委員：図書館のことなのですけども、基本構想の中に図書館という１項目があったので、こういうふうに２つ設けられて、またここにも相談員の配置。図書館というのは、書物に関しての情報というのが限られているイメージがあるのですが、生涯学習というとまた違って、アカデミーというくくりが図書とはまた別ですよね。図書館の中に生涯学習の相談員を配置したり、窓口を設けるということは、図書館に、生涯学習という大きな枠が一緒に協働して何かを今後やっていくのだということの認識でいいのでしょうか。そういうことも踏まえて、図書館、図書館と、生涯学習という枠の中で出てきて、図書館側は大丈夫なのだろうかという素朴な疑問を抱くんですが。

○山崎座長：それは当然出て来るでしょうね。

○桝田委員：私の真砂図書館での感じですけど、いらっしゃっている方は最近の本を借りていません。新聞だとか、雑誌だとかね。それが大半でいらっしゃっていました。だいたいお昼に皆さんいっぱいになっちゃうという。それと、図書館に勤務されている方、今は外に委託されている方ですが、そこに相談をされているのはあまり見なかったのですけどね。図書館的にはインターネットで検索して、準備しておけば足りる。

○山崎座長：書き方の問題なのだけど、図書館における相談員の配置というのは、生涯学習の相談じゃなくて、いろいろこういう本について調べたいということでの配置ではないのですか。

○黒木委員：それはいますよ。

○山崎座長：だからそういう意味での相談じゃないかと思うのですけど。

○黒木委員：いや、先生、違いますよ、図書館でも生涯学習の相談に乗れる体制をつくるのですよ。

○渡辺（み）委員：つくろうという意味だから、ここに書いてあるのですよね。

○山崎座長：だから、そういうときに渡辺さんのように相談と。

○黒木委員：ダブるかね、別々でいいのかって話でしょう。

○山崎座長：そうなるといいのかという問題。

○黒木委員：いいのですよ、それは一括管理の方がよさそうに見えるけど。

○山崎座長：だから、いいというふうに考えるか、そうじゃないかというのは、議論の別れ目だと思うんですよ。

○黒木委員：それは仕組みの問題でしてね、やり方の問題でしてね、こっちもやるのですよって委託の仕方を決めなきゃ駄目、それはやり方でしょうと思うのですよ。

○桝田委員：相談するには幅広い見識と経験じゃないかなと思うのですよね。

○渡辺（み）委員：こちらが一方的に言っていて、あちらの受け入れ態勢とかは考えなくていいことなのでしょうか、今の時点では。

○八木委員：まず大前提として、事業のすべてを実施することができるとは限らないということが、すべての分科会のスタートになっていますので。

○黒木委員：望ましい姿ね。

○八木委員：その中で、望ましい姿でもあるし、中にはできるものも当然あるでしょうし、簡単にできそうでも、ものすごく費用がかかってしまうこともあり得るんですよね。だから、実際にどうやってやるか、もう一回よく検討しないと、なかなか難しいところだということです。

○渡辺（み）委員：すみません、混乱させました。申し訳ありません。

○山崎座長：これは重要な問題。人と金があればね、それはいいのですよ、配置可能なのだけど、今のような現実の問題になったときに、今の渡辺さんのような問題は当然出て来るだろうし。

○黒木委員：私たちは、いつでも、だれでもという面を、目に触れる場面を広げるということで考えていていいと思うのですね、今はね。

○渡辺（み）委員：分かりました、ありがとうございます。

○山崎座長：だいぶ時間がたちましたから、この辺で５～６分休憩を取りましょう。45 分から再開したいと思います。

（休憩）

○山崎座長：だいぶ時間が押しておりますから、先にいきたいと思いますが、２の項目のところはだいたいこういうところでいいだろうと思いますので、３の方を説明してください。

○事務局：続きまして、３番「区民・団体の主体的な活動の支援」というところで、柱が４つございます。１つ目が「主体的な活動を支える仕組みづくり」で、今現在、事業としてありますけれども、「団体間の連絡会の設置」、また「社会教育関係団体の登録」ということで、引き続き行っていきたいということです。

先ほどもご意見をいただきましたけれども、「こらびっとの充実と活用」ということで、サークルに関する情報を発信できるような場、そこで情報を得たり、情報交換しながら主体的な活動を支える仕組みというのができるのではないかというご意見をここに入れております。

次に、５ページをお開きいただきまして、（２）「活動成果披露の場の充実」とあります。一番はじめに、地域アカデミーウィークの創設」というご意見をいただいております。こちらは地域アカデミー施設で特定の週ごとにイベントを実施するものというものです。その次の「アカデミアゼミ修了生の登用」ですが、こちらは現在ある事業の継続で、アカデミアゼミ修了生が一日体験フェアの企画や運営、相談などで活躍する機会を提供していくということで（２）に入れております。

続きまして、３番「人材育成の推進」ですけれども、一番はじめの「人材育成講座」につきましては、区独自の資格であります、生涯学習司養成講座、インタープリター養成講座ですとか、またアカデミアサポーター養成講座、こちらを引き続き行っていこうということで入れております。また、その下の黒丸なのですけれども、先日の分科会でも、サークルや団体に新しい方が入ってきたときに、どう受け入れていいのかノウハウがないといったご意見もあったかと思います。そういったところで、「サークル運営／活性化講座」ということで、運営者を対象に、運営のノウハウの講座を実施するという事業案をこちらに入れております。

続きまして、（４）「人材活用の推進」ですけれども、こちらは、上の３つにつきましては、人材を登録して活用するといった視点でつくっております。上から「生涯学習人材バンク活用の検討」、また「ボランティア登録の充実」といった事業を入れております。その下の黒丸の「生涯学習司アドバンスコースの協働実施」ということで、資格を取得された後のスキル向上について、大学と協働で講座を実施していくという事業案をいただきましたので、人材活用のところに今は入れております。柱の３につきましては、以上４つになります。

○山崎座長：ありがとうございました。それでは、ご意見を伺いたいと思いますが、例えば黒丸の地域アカデミーで特定の週ごとにイベントを実施という、これは清水委員から意見があってもいいような内容ですが。

○清水委員：ここを見ていると、勉強の話が多い。遊ぶ話とか、レジャーにつながる話はあまりないというのが率直な感想です。小さい頃からこういうことに興味を持ってほしいなというのがあれば、また文京学の方に戻っちゃうのですけど、例えば江戸検定みたいのってあるじゃないですか、ああいう文京検定みたいなものは考えられないのかなと、ちょっと広すぎて、詰めていかなければいけないのかもしれないですけど、こういうことを文京区はやっているよというのも、例えば、それは学問として知ってもいいかもしれないし、単純に地域の活動のことをどこまで知っているかとか、地理のこともどこまで知っているか、そういう分野、分野で、文京検定みたいなものを、文京学検定になるのでしょうかね、それをやってもらうと。例えば、文京で昔はやっていた遊びはこうでしたとか、この川の近くにはこんなことして人が住んでいましたとか、そういう検定をやると、本当に取っ付きやすくて、さらにもっと詰めてみようかなと、今度はこういう学問に進んでみようかとか、大学とかでそういう講座やってくれたらそれも聞きに行こうかなと、だんだん検定のレベルが上がっていくと、最後は文京名人とか、ライフマスターとか、そういうようなネーミングになって。

○黒木委員：いいですね。

○清水委員：その人に聞けば、文京区のことは何でも分かるというようなところまで持って行けたら、とても文京区らしいのじゃないかなって思ったのですけど。

○山崎座長：今言われた遊びというか、そういう視点が少しわれわれの議論の中には欠けていた、その遊びが単なる遊戯ではなくて、学に遊ぶといいますか、清水委員から今、文京入門とか、文京検定のご意見をいただいて、その上におそらく文京学みたいなものを総括していくようなことを考えておかれてもいいかなと思いました。

○清水委員：何段とかあると、すごく向上したいなって思うのではないかな。

○山崎座長：若者たちを引き込もうという意識がおありのようだから、それもまた重要なので、どうも大人の学習というところに行っていますから、大人の学習なのだけど、それを少し広げるみたいなご意見も。

○黒木委員：さっきの文京学、私も大上段から構えましたけれど、今みたいのはいいですよね。ただ、級が上がっていくという組み立てつくるのが大変でしてね。入門というか、最初の検定の一番下の級をつくるぐらいはつくれるのですよね、すぐね、どこの町でもやっていると思うのですけれども、そこで終わっちゃうと、やりっ放しになって学につながらないのですよね。だから、最初から第３段階ぐらいのレベルを学者さん集めて組み立ててもらわないと。そして、そこで扱うものは、歴史は事実として残っているから、歴史に限った方がいいと思うのです、最初は。経済とか、何とか入れないで。文京の歴史ですね。

○清水委員：生活にも歴史はあると思います、遊びにもあるし。

○黒木委員：だから日本人の好きな一種の雑学ですね。

○山崎座長：僕は、どこでもやってないのだけど、さっき言ったとおり定点観測して、文京区のここが、例えば昭和 30 年代の写真を集めてみて、どのように変わっていったのかということと、古老に聞くという、写真と語りをセットにした形で、これはどこでもやってないのですよね。特に古老の話しは今聞いておかなければなくなっちゃうのです。かつて文京で紙すきをやっていたなんていう話は、「えーそうなのですか」ということに現実になっちゃうわけで、やっぱりそういうものをセットにして、それを検定にうまくつなげていけば、それはそれでいいかもしれない。

○黒木委員：古老に改めて聞いて歩くのは大変なことになるので、各町会や何かで、何かのパンフレットやなんかにお年寄りが書いたものがあるのですよね。

○山崎座長：だからそういうお年寄りを引っ張り出したらいい、逆に、そういう人は喜んで来てくれる。

○桝田委員：地域おこしのキーワードですね。子ども向けには、夏休みに子どもアカデミーをやっているのですよ、いろいろ楽しくやっています。

○渡辺（み）委員：そういうところに文京学を入れられたらいいですよね、子どもの夏休みに。

○渡辺（泰）委員：町会でもこれから 60 年史を作るのです。30 年史までやって、30 年後から現代に至るものまでをどうするかまだ決めてないのですけど、そういう区の歴史とかを知っている方から、今までの 30 年史の部分にいろいろご意見が来ているのですよね。やっぱり今お話聞くと 30 年前のことから始めないと、文京検定などは、それより前のことが大事だと思います。

○桝田委員：町内会でそういうものを作っていただけたら、シリーズで講座を作ったりできればありがたいですね。

○渡辺（泰）委員：何十年に 1 度ぐらいしか作れないのです、費用が大変で。

○桝田委員：金の問題もあるし、手間の問題もありますしね。

○山崎座長：書くのが大変なのです。テープがあるわけだから、とにかく録音だけしておいてくださいと。そういうものを残しておいてもらうと、これはかなり違う。

○桝田委員：ノウハウを持っていらっしゃる方と、それをプロデュースしてつくり上げる方と分担したしたらいいと思います。

○渡辺（泰）委員：文京区は広いですよね、いろんなことを知っている方がいらっしゃるのですね。

○山崎座長：だから、うちの学長が今「コビナタか、コヒナタか」ってこだわっているわけですよ。だけど、どこにも、文京区史を見ようとどれを見ようと、これをきちんと決定するものがない。だから、そういうこと知りたいと思ってもつまずいちゃうのですよ。文京区史を読んでもね。それが正しいのかどうかっていうものがどこにもない。どうも江戸期は濁らなかったらしいとか、今は「コビナタ」になっているとかね。今、一生懸命うちの学長が自分のホームページにやっていますけども。

○黒木委員：やっぱり学者には、そういうものを調べ上げる力があるのですよ、文献を読んでね。ないものを探し出すのが学者の仕事なのだから、いいのですよ、学者にやってもらうのが一番い

いのですよ。

○山崎座長：だから今、彼は、うちの学校が文京区にあるから、まず文京区のそこのところから始めようということで調べ出しているわけです。だから、それをやさしく語ってと言っているわけですよ。学者に語らせると、みんな難しく語るから駄目だと思う。それをやさしく語ってほしいと、文京区からうちにそれを聞きたいって来たことがありますけど、今、文京学から、いろいろ検定まで出てきましたから、そこまで少しイメージを広げると、それこそ文京入門でもいいですよ、名前はね。

○黒木委員：差し当たっては、１つ文京入門というのはいいと思います。

○山崎座長：それで検定試験みたいなものをくっつけていけば。

○黒木委員：時代でもいいしね。

○清水委員：大正マスター、昭和マスターとかね。

○山崎座長：いいじゃないですか。同時に、さっき言った、今やっとかないと消えちゃうから、古老に聞くということをセットにしてとりあえず残しておいてもらえると、だからアーカイブ。

○黒木委員：それこそインタープリターのやる仕事だよね。お祭りもいいけど。

○山崎座長：どこでもいんですよ、どこでもいいのだけど、とにかくそういうものをセットにして。うち大学にも、新宿の町を、30 年にわたってお店の変遷と住居の変遷を調べた先生がいて、何てつまらないことやっているのだろうと最初は思っていたの。だけど、どのように変遷してきたかは非常に重要なことなのですよね。だからそういうことを含めて、今じゃなきゃできない。がんじがらめにならないように、そういう検定というところも入れながら、少し広げてみましょう。ほかにそこのところでご意見ございましょうか。

○桝田委員：ちょっと文言のところですけれども、５ページ、４番の「人材活用の促進」の右の方の２行目のところで、データベースのところの前に、生涯学習司といろいろ入れていただくのですけども、学習司だけがデータベースじゃなくて、ここは「学習司等」と「等」を入れていただければと思います。ここだけは入れていただいて、あとは「等」は入れなくていいと思います。それでサークルの運用対象、この辺は今回はじめて出てきて、サークルで一番困っていらっしゃる部分、運営のノウハウのところなのです、これはいいと思います。それから青少年は前からやっていたし。

○黒木委員：青少年委員は教育委員会じゃないのですか。

○八木委員：今はアカデミー推進課の所管です。

○清水委員：どうしてですか、所属していてなんですけど。

○八木委員：そういうご意見があることは確かでありまして。昔は生涯学習を担当する部署も青少年を育成する部署も、教育委員会の部署にありました。今後どうするかは課題となっています。

○清水委員：目的は、将来に向けたリーダーシップの育成。

○黒木委員：リーダーシップの養成ね、学校とは違うね。それはいいですね。

○清水委員：リーダーの養成ですね。

○桝田委員：本来、生涯学習司は地域のリーダーの養成が目的なのです。講座の作成も１つの役割であって、方法論であって、地域のリーダーを育成するというのが本来の目的なのです。ここでは講座とか、そういうところに焦点を絞られているようですけど、私は生涯学習司の１期生ですが、地域の町内会とかに支援をしていく知識を養おうということで入ったのです。そのうちに講座もやらないといけないなというところの演習で１つに考えただけであって。

○黒木委員：本来じゃなくて、もう変わってきたのよ、アカデミーの構想が。

○桝田委員：いや、そうじゃなくて、生涯学習のもともとの講座の目的。

○黒木委員：もう変わっちゃったのだから。

○桝田委員：いや、変わってないですよ、まだ。

○黒木委員：変わってきているのよ、それだけじゃないのよ。

○桝田委員：学習司のわれわれが１期生で、それで今活躍してくれているのです、町内会で、その辺の意味合いとは整合性とらないといかんところがあるのです。

○渡辺（泰）委員：ドイツのカイザースラウテルン市との交流というのはここには入らないですか。

○八木委員：国際交流という部会が別にあり、そちらの方で担当しております。

○桝田委員：ちょっと先ほど「等」を入れたりしたのは、生涯学習司の資格を持ってらっしゃる、勉強された知識をここで活躍していただける部分ということの色分けで「等」を入れさせてもらいたい。私も生涯学習司ですから、サポーターでもあり、委員でもあり。それからサークルもやっております。それも立ち位置と、もともとは区民であり、組織の中では町内会もあり、そこをいかに連携したり、立ち合っていくべきですからね。片方の軸で目標に向かって入る部分ともう１つの目的部分があって、両方一緒ならレベルが上がるという現実論でいかないと、一方だけで全部が網羅されているのではなくて、ベース部分は区民だというところに。

○山崎座長：どうですか、問題はないですか。

○桝田委員：あとは、アカデミア講座でもスポーツの入門編はやっているのですよ。それがサークルに発展して地域で活用してもらっているものもあります。今度の一日体験フェアでは、その発展版のサークル活動の紹介も用意しないといけない。それが皆さんに知っていただく役割だと思って、一日体験フェアの役割だと思います。

○山崎座長：４の人材活用のところですが、講座の運営にかかわる区民ボランティアの促進というのは、そういうものは今まったくないのですか。

○桝田委員：ボランティアをやりたい、講座を持ちたいという人はいるのです。どういうところで参加してくれるかということで、今は推進委員だとか、区民プロデュースだとか、あるいはサークルで、あるいは学習司の方、講座を企画している方、今やりたいなという人がたくさんいらっしゃるんです、今まで講座を持った人。そういうところまで含めたところでボランティアという表現になったのではないかと思いますけど。

○八木委員：アカデミア講座の運営のためのボランティアは、今いらっしゃいますよね。

○渡辺（み）委員：サポーターっていう。

○八木委員：サポーター制度があるから。またそれとは違う意味のボランティアも広げるということで黒丸になったと、私は現行でやっているわけではないと。

○桝田委員：でしょうね、これは。

○八木委員：それはまた後で整合を取るということでよろしいでしょうか。

○桝田委員：役割に絞りながらやる軸足部分と広めていくという部分と、またそれを受け止めて整備する体制も両輪でやらないといけませんのでね。

○山崎座長：じゃあ、３は一応そういうかたちにして、次の４のところに行きたいと思います。

○事務局：それでは最後の大きな柱になります、４番の「学習ネットワーク形成のための連携・協働」ということで、こちらは柱が４つ立っております。１番目は「区民や地域との連携・協働」ということで、一番上の丸については、近隣区との連携強化の検討を引き続き行っていこうということで出しております。また、下の四角なのですけれど、こちらは分科会の中で意見をいただきましたものですが、区民との連携による情報収集の仕組みづくりということで、地域の情報については区民の方が一番知っている、例えばあそこのおじいちゃんはこのことについてすごく詳しいとか、そういった生涯学習を進めていくに当たって、資格を持っていなくても様々な経験や知識を持っている方々が地域にたくさんいる。そういった方々の情報などを区民と一緒に収集していこうということで、四角のところで仕組みづくりというのを作っております。

次に（２）番「大学との連携・協働」なんですけれども、こちらはほぼ現行のものを継続していこうということで書いております。２番目のところの１の（１）再掲でもありますけれども、大学プロデュース講座の実施、また大学などとの連携の拡大、また連携の拠点づくりというのを引き続き行っていこうというところで事業を立てております。

３番目の「企業・団体との連携：協働」につきましては、一番下の「青少年委員活動への支援」というのを引き続き行っていこうということで挙がっているんですけども、１番目の「企業連携講座」というのは、こちらはまだやっていないのではというところで、委員の方からいただいたご意見をこちらに入れております。具体的には社員によるビジネスに関する講座などができればいいのではないかということで「企業連携講座」をこちらに入れております。

最後の（４）「各種資源の発掘、保存、活用」について、一番下のところに「文化歴史資源の発掘」というのがありまして、先ほど先生の方からもありましたとおり、昔のことを知っていらっしゃる方、また昔のものを表すものというのは、今保存しておかないとだんだんなくなっていってしまうものですので、例えば昔の出来事を今語れるような方々の情報を集めたりするというところも必要ではないかということで、一番下のという「文化歴史資源の発掘」ところに事業案を入れております。４につきましては以上です。

それから７ページのところにつきましては、こちらは５の「計画推進体制の強化」というところで、計画全体にかかわるものとは思っておりますけども、ちょっと簡単に説明をさせていただきます。計画そのものの推進体制の強化ということでこの柱が立っていますけれども、（１）の「推進体制の強化」というところで、皆さんに今ご参加いただいております「文京区アカデミー推進計画策定協議会」を継続して実施することであるとか、また庁内の組織である「生涯学習推進本部機能の強化」ということで、引き続き強化を図っていくという事業を挙げております。また事業につきましては、量を増やすだけではなくて、質のところの管理も必要だということで、皆さまからもご意見をいただいております。（２）のところで「各事業の満足度向上の仕組みづくり」ということでの行政評価ですね。ただやっていくだけではなくて、ちゃんと評価をしながら、改善しながら事業を管理運営していこうというところで、この事業を入れております。

○山崎座長：分かりました。それでは、ひとつ眺めてみてご意見をいただければと思います。

○桝田委員：１番の「誰でも地域アカデミー制度の創設」というところで、家庭やマンションの集会所うんぬんというところ、どうでしょうかね、現実問題。

○山崎座長：さっき佐藤委員がね。

○桝田委員：やりたいなという気持ちはあるけども、本当にそこまで踏み込めるかという。

○八木委員：社会福祉協議会の方で類似のことをやっているっておっしゃっていましたので、どんなやり方なのか。例えばお住まいの方がそこの集会室を使っていて、関連の方が数人ということのイメージと、誰でもということになると、かなりイメージが違ってくると思いますから。

○桝田委員：場所の問題と、そこに講師を呼んでやってくださいというのと、違うのですよね。

○八木委員：なかなか一般的にはどうなのかなというところがあります。

○黒木委員：自主勉強会の数人がどこかのお宅へ行くというのはありますね。

○八木委員：私的な領域ですから、これだけを読まれるとおっしゃるとおり驚かれるのも無理はないなと思われます。

○清水委員：出前講座だったら、こういうのはどうなのですか。

○黒木委員：出前講座を企画した側の人が、会場はここですって指定すれば、それは構わないと思いますよ。それから今１ページ目の方まで戻っていいということですか。それじゃあ、ｅラーニングをもっと活発にしませんか。ｅラーニングって、大学もあまりオープンにしてくれないのですけどね、どうなのでしょうね。

○八木委員：インターネットで、好きなときに好きな講座を受けることができると学習の機会が増えるということですので、それと私が申し上げようかと思ったのは、大学との連携なのですね。大学のコンソーシアムという言い方で、大学同士がいろんなことで結び付き合いながら、行政も同じレベルでお手伝いに入ってやるということがあるのです。京都市がものすごく有名でやっているのですけども、どこまでできるか分からないのですけど、そういうコンソーシアムもやるのだよということをできれば入れて、それで生涯学習として区民の皆さんには還元があるし、ｅラーニングも今日本女子大さんにお願いしていますけども、それ以外のところへの拡大ということも将来あるかもしれないです。現実に大学コンソーシアムで何をやっているかっていいますと、単位互換制度を採っているのです。Ａ大学の学生が、Ｂ大学に講義を聞きに行って、Ｂ大学の講座を取っても、それはＡ大学での単位に認定すると、単なる聴講ではなく、単位の互換制度ですので認定までしてしまう、卒業単位になりますよということを京都ではやっているのです。文京区内の大学も一部の大学同士とか、文京区外の大学同士でそういう単位互換制度をやっていますけども、その互換制度を継続させるためには、インターネットで補足的に勉強できるチャンスも広げていますよということになるのです。それも先ほど申し上げたようにものすごく経費もかかる。

○黒木委員：しっかり作ると大変ですよね。

○八木委員：ですけど、そういったことはほかの自治体でもやられておりますので、そういった趣旨のことを入れるのはよろしいか、ということなのです。

○黒木委員：すぐにではなくてもね。

○八木委員：10 年後を見据えるということで、これから 10 年の間に、ＩＴのさらなる進歩により、もっといろんなことができるようになるのだろうという視点で入れるのは、よろしいのかなと思います。

○黒木委員：４の方で、ネットワークで大学との連携の拡大というところ、言葉は前からあるのですけれども、中身ですね。建物、施設を利用させてもらえるかも含めてになると思うのですけど、教室が足りない、活動の場がないということですが、高等学校を利用させてもらう、これは都と交渉する必要があるのですけど、もう１つは大学の講座をオープンにしてもらえたらいいなというのがありますし、ここはやった方がいいという事業として挙がっていますけど、ここ１～２年の学長講演というのはどうなのですか、評価は。

○八木委員：多くの方にお聞きいただいています。

○黒木委員：人数はそうなのですけどね。その都度単発の話でしょう、連携はないですよね。

○八木委員：最近は１年にお１人お願いしています。過去には１年に４人の方にご講演をいただいた時期もあったのですけど、今は１年に１回、財団の主催で実施しており、トップレベルの学問のお話をいただくというのは、とても興味深いということで行っているものです。

○黒木委員：区民の希望する線がどこにあるか。

○八木委員：区民にもいろんな方がいらっしゃるので、どなたの意見がどこまでということは大変難しい。

○黒木委員：若手の学者の方がいいなと思って。

○八木委員：学長の講演会もありますけど、それ以外に財団アカデミーでは大学の自主企画講座もありますし、そうではなく一般向けの公開講座というのもやっていただいていますから、その中でいろんな連携を図ってもいいのではないかと思います。この間、大学と意見交換会したときには、もし類似のテーマの講座があるなら、大学同士で事前に打ち合わせをして、こちらの教授とこちらの教授で時間を分けて１日の講座にしてもいいのではないかとか、もっと事前の調整をすれば、いろいろなこともがうまくいくのではないかという意見をいただきました。

○黒木委員：見ていると、学長さん、何でもいいから話してくださいっていう感じなのですよね。

○桝田委員：大学がこちらの方を使うとしたら、持ち出しの講座ですよね。

○黒木委員：向こうの講座でしょう。

○桝田委員：向こうの講座で、それから連携講座ということで、学長版として意味があると思うのです。

○黒木委員：来てもらうのはいいことなのですよ。

○山崎座長：今までは大学というところは開かれていないところでしたから、先生方の授業だって公開しないというところが、最近は評価なんていうことになってきているものだから、お互いの授業を見学して批評し合うところまでとにかく来たわけですから、少しは普通になってきたのです。

○渡辺（泰）委員：それで東京大学なのですけど、今まで運動場を貸すということはあり得なかったのですけど、今回、地域の中学校の校庭が使えなくなったので、東京大学がそれでは貸しましょうと。

○山崎座長：それはよかったですね。

○渡辺（泰）委員：私も話を聞いてびっくりしたのです。それから３番の「企業・団体との連携・協働」の中で、「神社仏閣の開放要請」というのがあります。これは今までも開放されているのではないですか。

○桝田委員：護国寺は、先ほど配ったパンフレットに出ていますけど、このチームが一昨年開放要請して、門外不出の資料まで展示してくれました。

○渡辺（泰）委員：そういうことで開放ですか。

○八木委員：この開放という意味が場所に入る意味の開放なのか、秘蔵の資料を外に対して見せるというものなのか。

○桝田委員：場所だけ貸すということはできないでしょうけどね。資料まで見せてくれたのですよ。対象がどのぐらいあるか。近くの別院もありますし、神社もありますし、小石川大神宮もあそこにあるし。

○渡辺（泰）委員：氏子になっていれば、頼めば何でも認められるのですけど、こういうふうに開放要請となると、普通の人にはガードが堅いのかなというふうに。

○黒木委員：ちょっといいですか。ここに５項目あるうち４項目が四角に囲まれていて、１項目だけ外れているのですけど、何か意味あるのですか。

○八木委員：これはほかの分科会と共通項目であるということなのです。ですから、後でもう一回調整をしようと、そこは共通項でくくるために一回出しているところです。

○黒木委員：ここでもまたしゃべるわけですね、推進に当たって事業案はないのですか。

○八木委員：ご意見があれば、それはここでも承ります。同じような視点で管理ができるのではないかという前提で、共通項は外に出しています。

○黒木委員：早い話が、この推進体制というのは、推進課と指定管理者の関係でしょう、専らそういうことになるわけですよ。そこのところを話さないまま行っちゃうと、これやります、これやります、「はい」って渡しちゃったらっていう感じがするのですよね。ここの話なしに行っちゃったら、こういうのをやってください、ああいうのやってくださいで終わっちゃうと思います。よそと関連があるのは分かります。

○八木委員：共通項として、協議会にまた戻りますから。

○黒木委員：みんなでやるのですか。

○八木委員：協議会全体で。

○山崎座長：全体会議で。

○八木委員：またそこでいろいろと調整を。

○黒木委員：それじゃあ、今日はしゃべらないでおきましょう。

○山崎座長：黒丸のところは大体抑えられているかと思いますが、学校開放は、実はなかなか難しいところがあって、これは事故の問題なのですよ、事故の問題と責任の問題があるものですから、学校はなかなか開放しない。

○黒木委員：それは分かります、子どものところはなおのことね。

○山崎座長：どんなふうに開放できるのかっていうのは、簡単にはいかないだろうと思います。だから、今はこういうことで大体いいとして、最後に資料の 12 以降、分野別の計画骨子という形でここにまとめられていますが、事務局の方で簡単に説明をよろしくお願いします。

○事務局：資料 12 のところを簡単にご説明させていただきたいと思います。この後に、今事業案のところでご意見をいただいたので、それを踏まえて骨子ところでこういった文言が足りないのではないかとか、こういった文章は入れるべきじゃないかといったご意見をいただきたいと思っております。

それでは 12 号、8ページ目からご説明させていただきます。先頭に、1「いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実」とありますけども、こちらについては分野別の目標ごとにそれぞれ書いております。下のところの現状と課題ですが、現状につきましては、ちょっと文書をかいつまんで読ませていただきます。文京区では様々な区民の学習ニーズに応えられるよう講座などの充実を図っています。また、いつでも、どこでも、だれでも学習ができるようにインターネットなどの配信も行ってきました。ただ、調査の結果では、この１年ぐらいの間に生涯学習に取り組んだことのある人は４割程度にとどまっていました。また、活動しやすい時間帯については、土日、祝日の日中、また平日の日中であるところに望む割合が高く、また、活動場所についても、図書館のところに男女ともに 20 歳代から 50 歳代で特に割合が高くなるという状況が見えてきました。

こういったところから課題を下のところに４つ出しております。１点目が、区民一人ひとりのニーズに対応できる学習機会を充実させることが求められています。２つ目に学習や活動のための場所の確保や充実に努めることが求められています。３番にだれもが学習や活動ができるような配慮や仕組みづくりを進めることが求められています。４番に学習の場所として図書館の機能を充実させることが求められていますと書いております。

次の９ページ、この課題１から４にそれぞれ対応する形で、基本的な方向（１）から（４）まで書いております。（１）は「多様な講座や学習機会の提供・充実」ですけれども、中身は、１つが「区民の様々なニーズに対応できる学習機会を提供・充実させるためにバラエティーに富んだ機会を用意します」。また、「講座の内容については、区民、行政、大学とが役割分担をして担っていきます」ということを書いております。また、次の（２）ですが「学習や活動ができる環境の提供」というところで、「今後改築する生涯学習施設については、より一層利用しやすい施設にしていきます」と、また「学習機材の提供においても充実を図っていきます」という方向性を示しております。次の（３）「だれもが学習・活動しやすい仕組みづくり」ですけども、こちらは「学習や活動を行うに当たっての制約を除くための配慮と支援を行っていきます」というところで書いております。次の４番目、柱として新たに加わりました図書館のところですが、「様々な学習活動を支援する区立図書館」ということで書いております。内容としましては、「幅広い世代や対象者に役立つ資料などの収集、レファレンスサービスなどのさらなる充実により、区民の学習を支援していきます」ということで書いております。これらが分野別の目標の１番のところに当たります。

参考までに、次の下のところに事業例ということで、事業名を、これは本日の分科会以降に、それぞれの柱にしたがって事業例をここに入れていくのですけれども、おおよそ事業名、概要、取組主体といったところを書いていくつくりとなっております。

続きまして、11ページの柱の２番目のところに行きたいと思います。２つ目の柱が「一人ひとりの学習や活動を支えるための情報提供、相談体制の整備・充実」となっております。現状としましては、文京区では区民の生涯学習がより豊かなものとなるように、生涯学習に関する様々な情報を収集して情報提供してきました。また、生涯学習一日体験フェアでは、相談対応も行ってきております。しかし、調査結果では、生涯学習に取り組んでいない理由として、十分な情報が得られないからというところで、特に男性60歳代と女性20歳代のところで３割を超えていました。また、区が注力すべき課題としては、学習や活動について気軽に相談できる窓口を充実することというところも上げられておりまして、特に女性の50歳代では25％となっておりました。

こういったことから、課題を４つ挙げております。１つ目が「区民の様々な学習や活動のニーズを満たすことのできる情報の収集・整理が求められています」。２つ目に「収集した情報を分かりやすく、入手しやすい方法で提供することが求められています」。３番目に「区民が気軽に相談できる機会と場が求められています」。４番目に、こちらも新しく加わりました図書館に関することなんですけども、「情報提供において、地域にある図書館が拠点となることが求められています」となっております。

これら４つの課題に対応する基本的な方向が下のところに書いてあります。（１）「学習情報の収集・整備」、生涯学習に関する様々な機関の情報を収集し一元管理しますということで方向を書いております。次に２番目、「分かりやすい情報提供」、区民が手軽に欲しい情報を入手できるようにするために、様々な情報を１つの場所で得られるように工夫をします。また、その情報提供においてはインターネットも活用していきますということを書いております。次に12ページ（３）にいきます。（３）「相談体制の整備・充実」とあります。それについては、学習や活動を豊かにするために、区民が気軽に相談できる機会と場を充実させていきますということで方向を書いております。４番目には図書館のところの柱が立っております。「地域における情報拠点となる区立図書館」ということで、ホームページなどの広報を有効に活用し、社会情勢等を見据えたタイムリーな情報を発信していきます。また、地域特性を活かした資料の収集、提供を行うとともに、地域と連携した事業を展開していきますということで書いております。

次に、13ページの３番「区民・団体の主体的な活動の支援」のところに入っていきたいと思います。現状のところでは次のように書いております。文京区では、生涯学習活動を行う団体の自主的な活動が活性化していくように連絡会の活動を支援しています。ただ、調査では、区が注力すべき課題として「一緒に行う仲間づくりの機会を創出すること」というところで、特に男性の割合が高い結果が出ておりました。また、文京区では独自の資格として生涯学習司ですとか、文の京地域文化インタープリターといった資格制度を設けていて、区の生涯学習を推進していく人材の育成を行っております。ただ、その一方で生涯学習司などの資格取得後の活動の場が不足している現状も見受けられています。さらに、主体的な活動の継続においては、成果披露の場があるということが意欲向上や成果のまとめにおいて重要な役割を担っているということが分科会のご意見からもいただいております。

こういった現状から課題を４つまとめております。１つ目が区民の主体的な学習や活動を支えるための仕組みづくりが求められています。２つ目に学習や活動をより活性化させるため、成果を披露する機会の充実が求められています。３つ目に生涯学習司や文の京地域文化インタープリターなど、区独自の資格制度による人材の育成と活用が求められています。４番目に地域に存在する学習・活動経験者の知識や経験を地域に還元できるよう、人材活用の推進が求められています。この課題１から４に対応するように基本的な方向を13ページから14ページにかけて書いております。

○山崎座長：大きな項目だけお願いします。

○事務局：基本的な方向につきましては、（１）「主体的な活動を支える仕組みづくり」というところで、引き続き、情報交換できるネットワークの形成や連携を進めていきます。また、その要件を満たす団体の登録、活動支援を行っていきますということで挙げております。（２）番目は、「活動成果披露の場の充実」というところで、成果発表の場を充実させていくというところで３つ挙げております。３番目は「人材育成の推進」ですけれども、現在行っております独自の資格

について引き続き行っていくというところで２つ挙げております。４番目が「人材活用の推進」というところで、資格を取得された方の経験が活かせるような場であるとか、地域の中にいらっしゃる方の経験、知識を活かせる場を設けていこうというところで（４）に柱を立てております。こちらは大きな柱３番の内容になります。

ちょっと駆け足ですが、引き続き 16 ページ、４「学習ネットワーク形成のための連携・協働」のところに入りたいと思います。こちらのでは現状としまして、大学ですとか、区内の企業、区民との連携というのは今も推進を図っているのですけれども、引き続き生涯学習のネットワークの形成・連携ということが、文京区の生涯学習の活性化において重要な事項となっていますというところでまとめております。

課題を４つ出しております。１つ目が、区民と区との協働体制を整え、より良い学習や活動を進めていくことが求められています。２つ目に教育機関、特に大学との連携・協働を強化、進めていくことが求められています。３番目に企業や団体との連携・協働により、幅広い分野での学習や活動を進めていくことが求められています。４番目にあらゆる資源を活用し、区民の様々な学習・活動ニーズに対応していくことが求められていますと挙げています。

こちらは課題の４つに対応するように、基本的な方向を以下 16 ページから 17 ページにかけて４つ挙げております。項目だけ読ませていただきますと、１番目が「区民や地域との連携・協働」、２番が「大学との連携・協働」、17 ページに行きまして３番目が「企業・団体との連携・協働」、そして最後に「各種資源の発掘、保存、活用」というふうに挙げております。

ご説明が早口になってしまったのですけれども、本日これまでの議論を受けまして、この骨子の中に含めていくべきであろう文言など、ご意見をいただければと思います。

○山崎座長：予定していた時間を少し超過しておりますから、ここは今までの積み重ねの整理ですから、一応確認をしていただいて、ここに意見シートがありますので、問題点があればこの意見シートに書いていただければありがたいと思います。よろしくお願いします。それで、今後のことついて事務局からお願いします。

○事務局：今後の日程等について、事務局からご説明申し上げます。分科会は４月から始まりまして本日第４回まで、委員の皆さまにはご検討いただきましてありがとうございました。分科会での検討は今回で終了いたしまして、次回は協議会の方に戻らせていただきます。日程は９月 30 日木曜日の午後６時 30 分からシビックセンター24 階の区議会第二委員会室で開催いたします。なお、分科会での検討につきましては、本日頂戴いたしました委員の皆さまのご意見を踏まえまして、またほかの４つの分科会との調整も図りながら、素案のたたき台という形で座長と事務局にお任せいただきまして、資料等を修正させていただきたいと考えてございます。次回、第５回の協議会の開催前までに、本日の検討結果を踏まえた修正資料等を皆さまにあらかじめお送りしたいと考えております。それに対してのご意見などを第５回協議会でご発言いただければと考えてございます。なお、ただいま座長からもお話がありましたように、本日、意見が足りないとか、こういった意見を言いたかったということがございましたら、席上のご意見シートによりまして、来週８月 10 日火曜日までにご記入いただいてファックス等で返送いただければと考えてございますので、よろしくお願いいたします。以上です。

○山崎座長：時間が大幅に超過しましたが、分科会を閉じさせていただきます。事務局と座長の方でまとめさせていただいて、その資料をお送りいたしますので、ご意見あれば、そこで反映させてください。それでは、本日はありがとうございました。